血363 エプキンリ単剤療法【1コース目用:3ステップ漸増】(濾胞性リンパ腫Grade1-3A)　05-02-3355

レジメン期間：28日

Rp	薬品／コメント	投与量	用法／手技・ルート	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 8	Day 9	Day 10	Day 11	Day 15	Day 16	Day 17	Day 18	Day 22	Day 23	Day 24	Day 25
001 注射	生理食塩液（１００ｍｌ） ルートキープ用	1 瓶	化学療法点滴 メイン2	●				●				●				●			
002 注射	生理食塩液「テルモパック」（５００ｍｌ） 10時に 12　時間で滴下 40mL/h 残捨て	1 袋	化学療法点滴 メイン1	●	●			●	●			●	●			●	●		
003 注射	ポララミン注５ｍｇ（1mL） アセリオ開始前に	1 Ａ	静脈内注射 メイン2	●				●				●				●			
004 注射	アセリオ静注液１０００mgバッグ（100mL） １５分かけて	1 袋	化学療法点滴 メイン2	●				●				●				●			
005 注射	デキサート注射液6.6mg2mL［ﾃﾞｶﾄﾞﾛﾝ注後発］ 生理食塩液（１００ｍｌ） ３０分かけて	2.3 Ｖ 1 瓶	化学療法点滴 メイン2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
006 注射	生理食塩液（１００ｍｌ） ３０分かけて	1 瓶	化学療法点滴 メイン2	●				●				●				●			
007 注射	エプキンリ皮下注(ｴﾌﾟｺﾘﾀﾏﾌﾞ) 生理食塩液（５ｍｌ） 生理食塩液（２０ｍｌプラボトル） 腹部又は左右の大腿部に皮下注射　※週１回投与では、同一部位への反復注射は避けること ※エプキンリ投与開始30～120分前に、解熱鎮痛剤、ステロイド及び抗ヒスタミン剤を投与すること ー薬剤部調製（エプキンリ皮下注(4mg)0.8mLと生食4.2mLをあわせて滅菌空バイアル(中間用)に混合 うち2mLを抜き取り次の希釈へ、抜き取った2mLと生食8mLをあわせて滅菌空バイアル(投与用)に混合 うち最終必要量の1mL（エプキンリ0.16mg含有）をシリンジに）	0.16 mg/body 4.2 ml 8 ml	皮下注射 ー	●															
008 注射	エプキンリ皮下注(ｴﾌﾟｺﾘﾀﾏﾌﾞ) 生理食塩液（５ｍｌ） 腹部又は左右の大腿部に皮下注射 ※エプキンリ投与開始30～120分前に、解熱鎮痛剤、ステロイド及び抗ヒスタミン剤を投与すること ※週１回投与では、同一部位への反復注射は避けること ー薬剤部調製（エプキンリ皮下注(4mg)0.8mLと生食4.2mLをあわせて滅菌空バイアル(投与用)に混合 うち最終必要量の1mL（エプキンリ0.8mg含有）をシリンジに）	0.8 mg/body 4.2 ml	皮下注射 ー					●											
009 注射	エプキンリ皮下注(ｴﾌﾟｺﾘﾀﾏﾌﾞ) 腹部又は左右の大腿部に皮下注射 ※エプキンリ投与開始30～120分前に、解熱鎮痛剤、ステロイド及び抗ヒスタミン剤を投与すること ※週１回投与では、同一部位への反復注射は避けること ー薬剤部調製ー	3 mg/body	皮下注射 ー									●							
010 注射	エプキンリ皮下注(ｴﾌﾟｺﾘﾀﾏﾌﾞ) 腹部又は左右の大腿部に皮下注射 ※エプキンリ投与開始30～120分前に、解熱鎮痛剤、ステロイド及び抗ヒスタミン剤を投与すること ※週１回投与では、同一部位への反復注射は避けること ー薬剤部調製ー	48 mg/body	皮下注射 ー													●			
011 注射	生理食塩液「テルモパック」（５００ｍｌ） 22時に 12　時間で滴下 40mL/h 残捨て	1 袋	化学療法点滴 メイン1	●	●			●	●			●	●			●	●		

【レジメンコメント】

※エプキンリ皮下注の投与前後24時間は、2～3L/日の水分負荷を励行。

※エプキンリ投与開始30～120分前に、解熱鎮痛剤、ステロイド及び抗ヒスタミン剤を投与すること

※1コース目の各投与後には、入院管理すること。

※週１回投与では、同一部位への反復注射は避けること。

G3以下のサイトカイン放出症候群が出現した場合、回復するまで休薬

血363 エプキンリ単剤療法【1コース目用:3ステップ漸増】(濾胞性リンパ腫Grade1-3A)　05-02-3355

レジメン期間：28日

Rp	薬品／コメント	投与量	用法／手技・ルート	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 8	Day 9	Day 10	Day 11	Day 15	Day 16	Day 17	Day 18	Day 22	Day 23	Day 24	Day 25
G4のサイトカイン放出症候群が出現した場合、投与中止 ※以下の投与遅延があった場合、サイトカイン放出症候群を軽減するために、1コース目の投与方法に戻して再び投与を開始すること。 0.16mgと0.8mgの投与間隔、又は、0.8mgと3mgの投与間隔が8日を超えた場合 3mgと48mgの投与間隔が14日を超えた場合 48mgの投与間隔が6週間を超えた場合 その後は、予定されていた次の投与コース(投与を延期したコースの次の投与コース)の1日目から投与を再開すること。 ＊1ｺｰｽ目 又は 上記投与遅延があった場合に使用するレジメンです。																			